2019 年度地域資源創成学部卒業生アンケート調査に関する一考察

小山 大介（宮崎大学地域資源創成学部）熊野　稔（宮崎大学地域資源創成学部）
井藤　哉（宮崎大学地域資源創成学部）戸敷 浩介（宮崎大学地域資源創成学部）
福島三穂子（宮崎大学地域資源創成学部）松岡 崇暢（宮崎大学地域資源創成学部）

A study of the Survey for Faculty of Regional Innovation Graduate in Academic Year 2019

Koyama, Daisuke, Kumano, Minoru, Ito, Hajime, Toshiki, Kosuke,
Fukushima, Mihoko, Matsuoka, Takanobu

はじめに

宮崎大学地域資源創成学部は、2016 年 4 月に設置され、2020 年 3 月に初めてとなる卒業生を社会に送り出すことができた。同学部は文理融合型の学部であり、なおかつ実務家教員が多数所属し、実践活動を重視しているという特徴をもち、県内外および海外から高い関心が寄せられている。そのため、第 1 期生が学生生活のなかでどのような興味を持ち、何に力を入れてきたのか、また、大学での諸活動や 4 年間の学生生活が、卒業生の就職先やキャリア形成にどのように関わっているのか、学内はもとより、県内関係者も高い関心を持っているものと思われる。くわえて、学生が 4 年間の学生生活を振り返り、どのような成果があったと考えているのか、学部としても調査・分析し、今後の教育・研究活動の基礎資料とすることには、大きな意義がある。

そこで、地域資源創成学部では、教務委員会が中心となり、卒業生向けにアンケート調査を実施した。2020 年 3 月といえば、新型コロナウイルスが全世界で猛威を振るっている時期であり、卒業式が延期になるなか、アンケート調査の回答率が低下する可能性もあったが、教務学生支援係の協力、そして何よりも卒業生が熱心にアンケート調査に協力してくれたこともあり、90％以上の回答率を確保したことで、貴重な基礎資料を得ることができている。

本稿では､2020 年 3 月に実施し､教務委員会等にて分析結果が共有されている卒業生アンケートをさらに分析し、広く内外に公表することによって、地域資源創成学部の発展に資するとともに、文理融合型かつ研究者と実務家が共存する学部において、4 年間でどのような成果が生まれ、また課題が見えてきたのか検討をくわえる。

そのため、まず、地域資源創成学部におけるアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、そしてカリキュラムの特徴について検討したのち、卒業生アンケート調査の分析を行う。

1．地域資源創成学部の学びの特徴

(1) アドミッションポリシーとディプロマポリシー

同学部では、地域に根差し、地域経済・社会に貢献し、地域の発展のため主体的に行動でき

る人材の育成に力を入れている。そのため、教育プログラムは座学・理論だけでなく、実習・実践を重視し、1 年生から地域について学ぶ「探索系」科目が多数配置されている。これには、宮崎県を含めた全国の地域が抱えている課題と深く関係している。それは、①地域経済・社会の活力低下、②地域の高齢化・過疎化、③低い県内就職率、である。特に、③の県内就職率については、高校卒業者で 2019 年度 57.9％と、全国で 44 位に低迷[1]しており、宮崎県が 2019 年に公表した「若者の県外流出要因等調査結果」では、回答した県内大学生の 47.5％が県外就職を希望している（宮崎県　2019）。若者の県外流出を食い止め、地域経済・社会の再活性化を図るとともに、次世代を担う「地域のリーダー」を育成するという課題を同学部が担っているのである。だが､それは単に「地域に残る人材」を輩出するのではなく､宮崎大学全体のスローガンでもある「世界を視野に地域から始めよう」が象徴しているように、グローバルな視点から地域を見つめ、行動できる人材を育成することが求められている。アドミッションポリシーとディプロマポリシーも、この基本的視点に則って構築されている。

まず、アドミッションポリシーだが、ここでは地域資源創成学部地域資源創成学科の教育目標を「地域資源を活用し新たな価値を創成する企画力・実践力の育成を図り、地域の活性化に不可欠なイノベーション創出に向けたマネジメントの知識と，地域資源の価値を複眼的に捉える視野を持った人材を養成し、実社会で即戦力として活躍できる人材の輩出」としており、求める学生像を「地域振興に対して熱意（学問への関心）を持って取り組み、社会科学および自然科学に対する基礎学力（知識・技能）を有し、コミュニケーション能力・表現力と思考力・判断力を持つ人、また学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる強い意思を持った人材」としている[2]。つまり、高校卒業時に身に付けている基礎的学力にくわえ、地域振興への視点、コミュニケーション能力が強く求められており、地域社会に深く浸透し、実践活動を協働して行うための能力が必要となっている。

次に、ディプロマポリシーでは、以下の素養を身に付けた学生に学士（地域資源創成学）の学位を与えるとされている。それは、①地域資源創成のために必要なマネジメントの専門知識を有していること、②地域資源創成のために必要な社会・人文科学、及び農学・工学の利活用技術の基礎知識を有し複眼的な視野から地域資源の価値を捉えることができること、③人々と広く協働し､地域の資源や状況をよく理解･分析することで問題解決に導けるコミュニケーション力、理解力を有していること、さらに④３コース（企業マネジメントコース、地域産業創出コース、地域創造コース）いずれかの人材育成像に対応した、地域資源を活用し、新たな価値を創成する企画力・実践力を有していること、である。

また、各コース特徴は、企業マネジメントコースが企業経営、企画力、プロジェクト遂行能力の育成に軸足を置き、地域産業創出コースが地域資源を活用し、商品開発・企画力に、地域創造コースが地域の抱える様々な課題に取り組み、解決へと導く、課題解決能力の育成を重視している。つまり、地域を企業活動、研究・開発、産官学連携、社会の視点から理解し、地域をより深く学ぶというコンセプトのもとに、地域資源創成学部が創られているのである。

---

[1] 文部科学省が調査している「学校基本統計」によると 2019 年度の高校を卒業した人の県内就職率は、57.9％と 4 年連続で増加したが、全国 44 位となっており、トップの愛知県とは 22.7 ポイントの差がある（宮崎日日新聞、2019 年 8 月 9 日付 朝刊）。

[2] 宮崎大学地域資源創成学部地域資源創成学科のアドミッションポリシー、ディプロマポリシー等については、学部ホームページを参照されたい（https://www.miyazaki-u.ac.jp/atrium/introduction/policy/）。

(2) 地域資源創成学部のカリキュラム構成

これら２つのポリシーを実現される講義カリキュラムについては、上述の通り実践を重視する構成となっている。この実践活動については、１年生前期から開始され、大学周辺の地域の実態を探る「地域理解実習」、そして宮崎県内の都市部と農村部の実態調査を行う「地域探索実習Ⅰ」(1年生後期)、県内企業の見学やヒアリングを実施する「地域探索実習Ⅱ」が配置されている。それらの科目によって基礎的知識を身に付けた後、学生が２年生後期より３つのコースに分かれ、指導教員のもとで実践活動を行い、４年生の卒業研究へと繋げるのである。そのため、４年生における卒業研究（卒業論文等）の発表が必須となっている。

これにくわえて、２年生前期までに「マネジメントコア科目群」として、経営学、経済学、地域経済学、社会学、法学に関する科目が配置され、その後、マネジメントアドバンス科目として、各分野別の専門科目を履修していくことになる。また、コース別で配置されている科目は異なっている。

さらに、語学力の習得にも力点が置かれていることも特徴の１つである。ビジネス英語の習得を目指し、１年生から３年生にまで英語科目が配置されているほか、４年生を除くすべての学生は、年２回の TOEIC の受験が必須となっている。留学を目指す学生には、特別英語Ⅰ, Ⅱも設置されている。これらの科目によって、世界を視野に活動するために必要となる英語力を養うことを目標としている。

このほか、国内インターンシップあるいは海外短期研修を行うことが必修となっている。この実習活動は、どちらかを選択することもできれば、両方を受講することも可能であり、海外に興味のある学生の多くは、海外短期研修を選択している。また、国内インターンシップ先は、基本的に学部が準備した受け入れ企業から選択することになるが、学生自身がインターンシップ先を開拓するケースもある。

これらの科目群が、文理融合かつ実務家と研究者によって提供されており、また県内自治体、企業、他学部と連携によって授業が構築されており、学生は自らのキャリア形成に応じて、講義を選択することになる。さらに、個別学生への学修評価については、GPA（Grade Point Average）が導入されるなど、卒業には高い学習意欲を必要としている。

では、これらのカリキュラムを修得し、卒業研究発表を行い、学位を取得した卒業生は、4年間の大学での「学び」をどのように評価しているのだろうか。次節で具体的に検討したい。

２．2019 年卒業生アンケート調査の検討

(1) アンケートの概要と回答属性

まず、アンケート調査は、A4 用紙２枚（両面１枚）に作成し、10 の調査項目を設定した。当初の予定では、全学にて実施される卒業式の際、出席した学生を中心として記入してもらうよう体制を整えたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、大学全体での大規模な卒業式が中止になったことから、卒業証書受け取りの際、記入してもらうよう手法を変更している。記入方法は、卒業生による直接記入であり、教員は関与せず、氏名は無記名とし、追加のヒアリング調査は実施していない[3]。

[3]卒業生アンケートの調査項目については、巻末に添付されている参考資料「宮崎大学地域資源創成学部卒業生アンケート調査」を参照されたい。

具体的な質問項目は、質問内容の違いから 3 部構成となっており、最初に大学生活全般についての質問が設定されている。次いで、学部での「学び」について修得した能力や授業プログラムへの満足度をたずねている。これら 2 つの質問項目については、「5 段階」で評価する方法が取り入れられている。そして最後に、卒業後の進路選択と学部での授業や経験との関係を問う構成となっている。アンケート回答時間は、概ね 10 分以内を想定している。

それでは、次にアンケートの回答属性を説明しておく。2020 年 3 月の調査では、有効回答は 82 人となっている。また、所属していた 3 コース別の回答は、企業マネジメントコースが 32 人、地域産業創出コースが 27 人、地域創造コースが 20 人であった。学部全体の卒業生が 91 名であることから、卒業生の 90%以上から回答を得ている。ただ、回答のなかには、記入漏れが存在するため、各質問項目によって回答者数が異なっている。

表1 各コースと学生の性別（上段：回答数、下段：%）

	合計	企業マネジメントコース	地域産業創出コース	地域創造コース
合計	82	32	27	20
	100.0	42.7	32.9	24.4
男性	46	18	14	14
	100.0	39.1	30.4	30.4
女性	36	17	13	6
	100.0	47.2	36.1	16.7

表2 大学生活での満足度（所属コース別）

	合計		企業マネジメントコース		地域産業創出コース		地域創造コース	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
満足	41	50.0	26	74.3	7	25.9	8	40.0
概ね満足	39	47.6	9	25.7	20	74.1	10	50.0
どちらでもない	1	1.2	0	0.0	0	0.0	1	5.0
やや不満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不満	1	1.2	0	0.0	0	0.0	1	5.0
合計	82	100.0	35	100.0	27	100.0	20	100.0

表3 大学生活で特に力を入れたこと（所属コース別）

	合計		企業マネジメントコース		地域産業創出コース		地域創造コース	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
学業（研究等）	30	37.0	14	40.0	10	38.5	6	30.0
部（サークル）活動	14	17.3	4	11.4	5	19.2	5	25.0
アルバイト等	14	17.3	6	11.7	5	19.2	3	15.0
社会貢献活動	5	6.2	2	5.7	1	3.8	2	10.0
就職活動	6	7.4	3	8.6	1	3.8	2	10.0
趣味	8	9.9	3	8.6	3	11.5	2	10.0
その他	4	4.9	3	8.6	1	3.8	0	0.0
合計	81	100.0	35	100.0	26	100.0	20	100.0

表4 大学生活で最も苦労したこと（所属コース別）

	合計		企業マネジメントコース		地域産業創出コース		地域創造コース	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
学業（研究・課題等）	36	45.0	13	39.4	14	51.9	9	45.0
生活費捻出	9	11.3	3	9.1	4	14.8	2	10.0
友人や教員との人間関係	5	6.3	3	9.1	1	3.7	1	5.0
部（サークル）活動	4	5.0	1	3.0	1	3.7	2	10.0
アルバイト等	3	3.8	1	3.0	2	7.4	0	0.0
就職活動	19	23.8	9	27.3	5	18.5	5	25.0
その他	4	5.0	3	9.1	0	0.0	1	5.0
合計	80	100.0	33	100.0	27	100.0	20	100.0

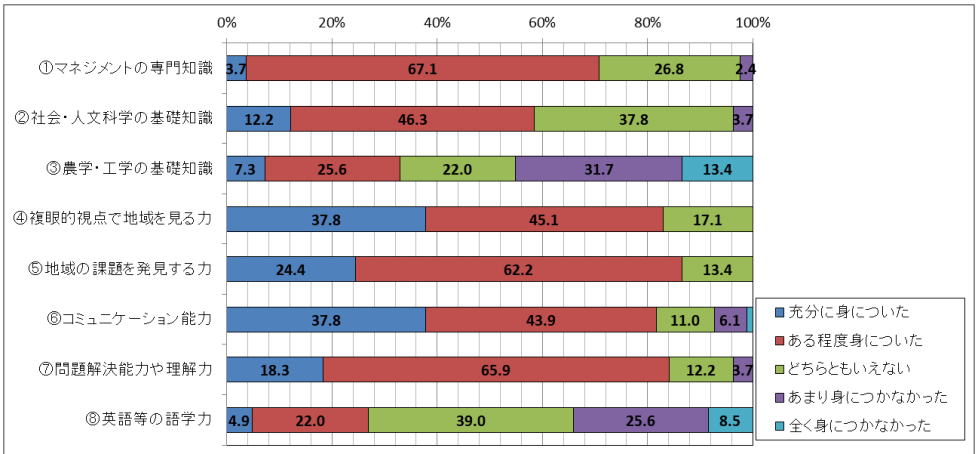

図１　地域資源創成学部で身につけた能力や知識（全体、%）

(2) 大学生活の満足度および力点・苦労

本項では「大学生活での満足度」、「大学生活で特に力を入れたこと」、「大学生活で最も苦労したこと」について検討する。まず、大学生活での満足度については、全体の 97.6%の卒業生が「満足」あるいは「概ね満足」と回答している（表 2)。また、企業マネジメントコースで「満足」との回答が最も高く、地域産業創出コースでは「概ね満足」との回答が 74.1%に達している。「不満」との回答は１件（1.2%）に留まっている。

次に、大学生活で特に力を入れたことについては、「学業（研究等)」との回答が最も高く、次いで「部（サークル）活動」、「アルバイト等」が同じ回答数となった。このほか「就職活動」や「社会貢献活動」、「趣味」との回答が複数寄せられている。コース別回答状況では、「部（サークル）活動」との回答は、地域創造コースで最も多く、地域産業創出コースでは「アルバイト等」、「趣味」との回答が多く見られた。企業マネジメントコースでは、回答が分散する傾向が見られ、学生ごとの個性が表れる結果となっている。

大学生活で最も苦労したこと（表 4）については、「学業（研究・課題等)」との回答が最も多くなっており、次いで「就職活動」の順となっているが、「生活費捻出」との回答が 9 件（11.3%）寄せられている。また、「友人や教員との人間関係」や「部（サークル）活動」において苦労したとの回答も少なからず存在しており、学生が高校時代よりも複雑化する人間関係に苦労しているという側面を浮き彫りにしている。だが、ここで最も注目すべき点は、「生活費捻出」との回答であろう。国内の経済状況が悪化するなかで、実家からの仕送りが減少し、学費を奨学金で支払い、生活費をアルバイト等で捻出している学生は、多く存在していると考えられる。学生がより学業や社会活動に専念できる体制を整備することは、今後の課題となろう。

３．地域資源創成学部における「学び」への評価：所属コース別分析

(1) 身に着けた知識・能力への満足度

地域資源創成学部では、地域の課題を発見し、その課題を文理両面からの視点で解決へと導く力を養うためのカリキュラムが設定されている。この教育プログラムへの満足度をたずねた

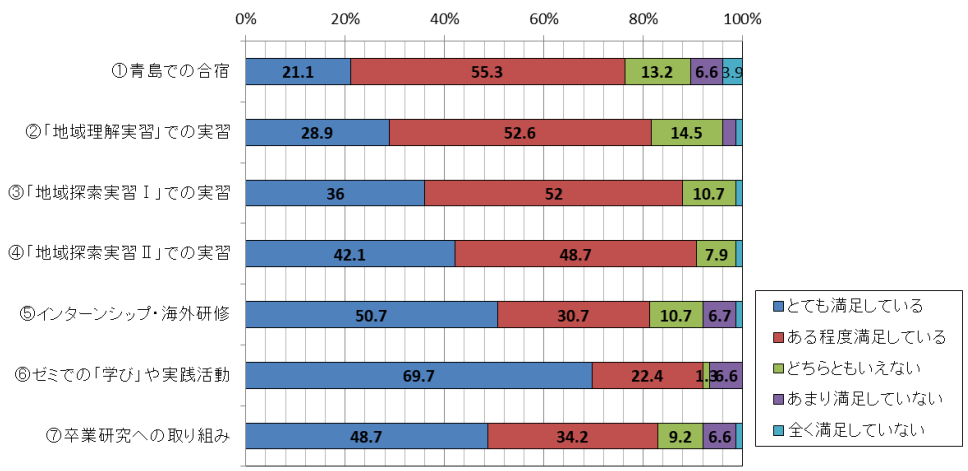

図2 地域資源創成学部での「学び」や実践活動の満足度（全体、%）

項目が、質問項目５の「身に付けた能力や知識」ということになる。この質問では、５段階での評価を導入し、「十分身についた」、「ある程度身についた」、「どちらともいえない」、「あまり身につかなかった」、「全く身につかなかった」から選択することになっている。そして、図１にも示されているように、評価項目が８つ設定されている。

この８つの評価項目を見ると、全体的には「充分に身についた」、「ある程度身についた」との回答が大勢を占めいている。特に①マネジメントの専門知識、④複眼的視点で地域を見る力、⑤地域の課題を発見する力、⑥コミュニケーション能力、⑦問題解決能力や理解力、といった項目では７割以上の卒業生が、能力が身についた、と回答している。だが、③社会・人文科学の基礎知識、③農学・工学の基礎知識、といった項目では、「どちらともいえない」、「あまり身につかなかった」との回答が見られ、各学問領域における基礎知識から専門領域への学修過程に課題を投げかけている。また、これが文理融合型教育における今後の課題ともいえる。

質問項目⑧英語等の語学力、ついては「どちらともいえない」、「あまり身につかなかった」、「全く身につかなかった」との回答が全体で73.1％に達した。これは本学部が英語教育を重視し、一部学生の海外志向が強いものの、カリキュラム編成が宮崎県内を中心とした地域経済・社会を中心に展開されていることが影響していると思われる。

各コース別でも動向の違いが見られた。③農学・工学の基礎知識については、地域産業創出コース、地域創造コースにおいて「充分に身についた」、「ある程度が身についた」との回答が多くなっているほか、企業マネジメントコースでは、④複眼的視点で地域を見る力が「充分身についた」との回答が半数以上を占めている。地域創造コースでは、②社会・人文科学の基礎知識への習得度が高いことも特徴となっている。

コース別によるこのような回答の差異は、それ自体が各コースにおける教育カリキュラムの特徴を示すものとなっている。だが、語学力の向上、ひいては海外への関心の喚起や、グローバル・ローカルの視点、国際感覚の醸成をいかに行うのか、という学部共通の課題が存在しているように思われる。

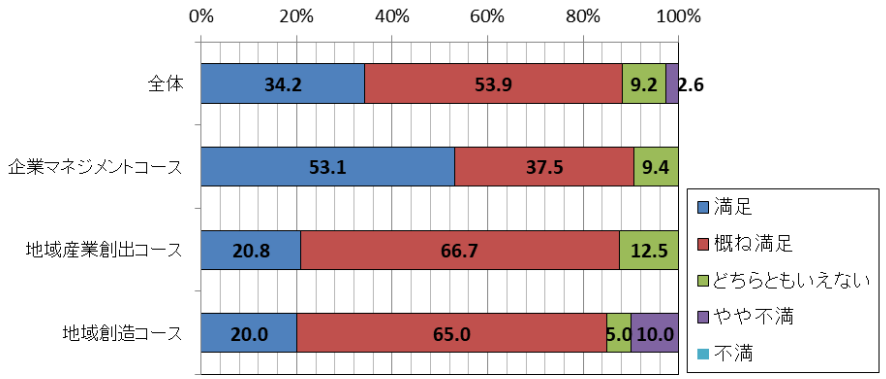

図3 地域資源創成学部のカリキュラムや施設への満足度（%）

(2)「学び」や実践活動、カリキュラムにおける満足度

次に、「学び」や実践活動、カリキュラムについての満足度について検討したいと思う。「学び」や実践活動への満足度についても、「とても満足している」、「ある程度満足している」、「どちらともいえない」、「あまり満足していない」、「全く満足していない」の５段階での評価を求めた。質問項目については、学部の特徴でもある実践活動への満足度を問う質問が中心となっている[4]。

ここでの回答結果を見ると、①から⑦すべての項目で、「とても満足している」、「ある程度満足している」との回答が大勢を占めている（図2）。そのなかでも、⑥ゼミでの「学び」や実践活動については、高い評価を得ており、③「地域探索実習Ⅰ」での実習、④「地域探索実習Ⅱ」での実習、⑦卒業研究への取り組み、についても同様の傾向となっている。ただ、①青島での合宿、⑤インターンシップ・海外研修については、高い満足度がありながらも、一部の学生については、「どちらともいえない」、「あまり満足していない」との回答も見られた。コース別の傾向についても、ほぼ同様となっているが、①青島での合宿について、地域創造コースの卒業生で「あまり満足していない」、「全く満足していない」との回答が目立っている。

次にカリキュラムや施設への満足度についても、全体的に「満足」との回答が多く寄せられている。そのなかでも特に、企業マネジメントコースで「満足」との回答が全体の半数以上に上っている。地域産業創出コース、地域創造コースについては同様の傾向となっている。

このように、実習、実践活動における卒業生の評価は、概ね良好なものであった。また、カリキュラムや施設についても「満足」との回答が大勢を占めている。だが、一部の学生については、「不満」や「満足していない」との回答が見られることから、今後も随時カリキュラム等を見直すと同時に、学生１人１人に目を向けたきめ細やかな指導を進める必要があるだろう。

(3) 卒業後の進路で学部での「学び」との関係

卒業後の進路として、多くの学生は民間企業で働く道を選んでいるが、宮崎県内の各自治体

[4]質問項目「①青島での合宿」とは、１年生前期の配当科目である「大学教育入門セミナー」で実施行っていた１年生が全員参加しての１泊２日の研修活動を指す。２日間でグループに分け、課題についてその解決策を検討するなかで、コミュニケーション能力や課題解決能力、情報収集能力を養うことが目的となっている。

へと就職した学生や他大学の大学院への進学、留学、あるいは新たな設立された地域資源創成学研究科（修士課程）への進学など、卒業生は自らの意思のもとで多様な進路を選んでいる。図 4 では、卒業後の進路を選ぶうえで役に立った授業や経験、アドバイスについて、複数選択形式によって回答を求めている。この結果によると、⑦ゼミ活動（56.8％）、②国内インターンシップ（43.2％）、⑩友人や先輩のアドバイス（36.5％）、⑬指導教員等からのアドバイス・指導（29.7％）、②専門科目の授業（28.4％）、③実践活動（25.7％）との回答が多く寄せられている。コース別では、②専門科目の授業との回答は、企業マネジメントコースで多く、④国内インターンシップについては企業マネジメントコース、地域産業創出コースでの回答が目立つ。地域創造コースでは、回答が⑦ゼミ活動に集中する傾向も見られた。ただ、⑧地域学部による就職ガイダンス・指導（13.5％）、⑪地域・社会貢献活動（12.2％）、⑫地域学部の合同企業座談会（10.8％）など、学部が提供している就職活動に関するプログラムについては、役立ったとの回答が少なくなっており、卒業生は独自に就職活動を行うか、地方公務員採用試験に応募していたと考えられる。くわえて、⑤外国語科目と回答した卒業生は、1.4％と最も少なくなっており、学生の日本国内地域への志向性が反映されているものと思われる。

表5 卒業の進路について（所属コース別）

	全体		企業マネジメントコース		地域産業創出コース		地域創造コース	
	回答	%	回答	%	回答	%	回答	%
一般企業	52	69.3	25	80.6	18	75.0	9	45.0
公務員	15	20.0	3	9.7	5	20.8	7	35.0
大学院進学	3	4.0	0	0.0	0	0.0	3	15.0
留学	1	1.3	0	0.0	1	4.2	0	0.0
起業・自営業	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
未定	1	1.3	1	3.2	0	0.0	0	0.0
その他	3	4.0	2	6.5	0	0.0	1	5.0
合計	75	100.0	31	100.0	24	100.0	20	100.0

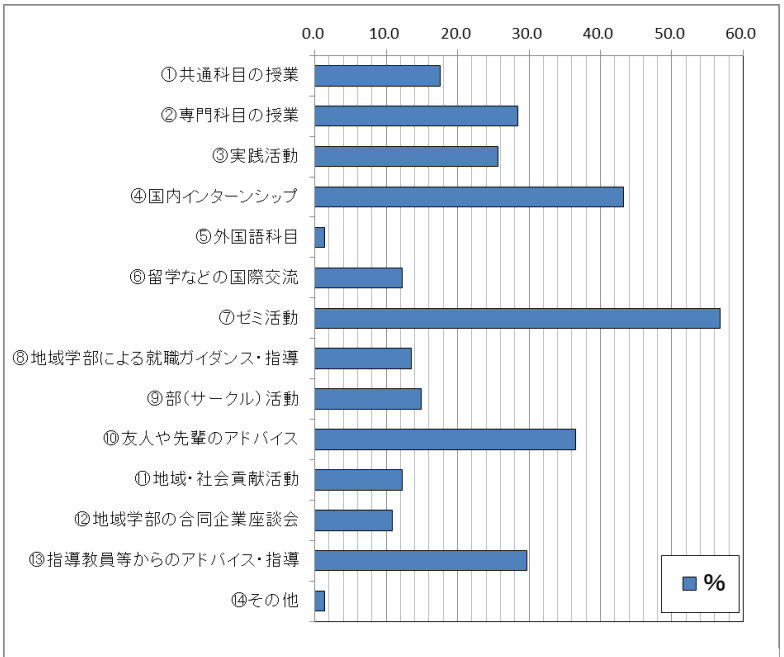

図4 卒業後の進路を選ぶうえで役に立った授業や経験、アドバイス（全体、複数回答）

４．地域資源創成学部における教育活動の成果と課題

(1) 地域密着型教育と実践活動

ここまで、本稿では2019年度卒業生アンケートの結果について検討をくわえてきた。アンケートでは、全体として、学部が４年間に提供したカリキュラムや実践活動について好意的な評価が行われており、特に複眼的視点やコミュニケーション能力の獲得については高く評価されている。本項では調査項目として設定された自由回答欄の記述から、より具体的な成果と課題を検討したい。自由回答欄は「カリキュラムや施設についての満足度」について、より具体的な理由を聞く項目と、「講義やゼミ活動について成果や課題」を問う項目が設定されている。

まず、「カリキュラムや施設についての満足度」を聞く項目では、多様な学問領域への「学び」、ゼミや実践活動の充実、地域課題の解決に向けた取り組み、教員の教育に取り組む姿勢について、評価あるいは前向きな回答が多数寄せられていた。

だが、講義スケジュールやカリキュラムについての課題を指摘する回答も少なからず存在している。例えば、「予定等急なものが多く連絡もない」、「実習に意義を見出せなかった」、「工学分野との連携が少ない」、「一期生ということでお試しな活動が多く、長続きしなかったことが残念」、「コースやゼミによって充実度が違う」、「実習では提案で終わらず地域に根差した活動をしても良いと思う」、「もう少し学生が主体的に取り組めるカリキュラムが必要」いった回答が見られた。

コースやゼミにおいて行われている教育カリキュラムや課題が異なっているため、学生から見た充実度に差異が存在することは、予想されることであるが、コース単位で過度に充実度が異なっている場合は、全学部的な再検討が必要であろう。だが幸いなことに、本調査を見る限りにおいては、コース別の過度な充実度の違いは見られなかった。また、ゼミ・実践活動について、疑問を持っている学生が少なからず存在していることが明らかとなっており、全体としての高い評価にとらわれない改善活動も必要となっている。急な予定が多いというコメントについては、連絡事項を学生に対して早期に伝達するよう心掛けることよって改善するものと思われる。

次に「講義やゼミ活動についての成果や課題」については、やはりゼミや実践活動での成果を指摘するコメントが多くあり、卒業を迎え改めて学修意欲が高まる傾向もある。だが、ここでも問題を指摘するコメントが寄せられている。それらは、「ゼミの人数差が多かった」、「ゼミとアルバイトで２年生の時、忙しくサークルを辞めざるをえなくなった」、「ゼミの途中で教員が変わるのは負担だった」等の回答である。これらの項目については、今後の検討課題となるだろう。

(2) グローバル人材養成に向けた課題

卒業生アンケートから見えてきた最大の課題は、グローバル人材養成に向け、国際感覚をいかに養うのかということである。国際感覚を養う際、重要となるのが海外への関心と情報収集である。新型コロナウイルス感染拡大が続く2021年１月現在においては、世界各国への移動手段は、限りなく制限されており、海外旅行等へ赴くことは不可能に近いが、海外の情報を得る、あるいは海外の財やサービスを得ることは可能となっている。さらに、コロナ禍が収束することによって、人の往来は必ず再開され、グローバリゼーションは引き続き進展していくも

のと思われる。その時、国内経済はより一層、海外と密接な関係が構築されることになるだろう。その際、海外事情に関する情報は必要不可欠なものとなり、海外情報を入手する手段として、一定の語学力が必要となってくる。くわえて、学部におけるカリキュラムの柱の 1 つとして、「ビジネス英語の習得（生きた英語）」が掲げられており、1 年生から 3 年生にわたり、コミュニケーションを重視したカリキュラムが組まれている。

だが、卒業生アンケートの結果を見ると、英語等の語学力については、能力や知識が十分身についておらず、「充分に身についた」と回答した卒業生は、全体の 4.9％に留まっている。また、「あまり身につかなかった」、「全く身につかなかった」との回答を合計すると、「充分に身についた」、「ある程度身についた」との回答を大きく上回っており、消極的な回答である「どちらともいえない」を合わせると、回答率は 70％以上に達している。この課題については、教員個人の努力、短期的な視点で解決できる問題ではなく、学部はもとより全学を巻き込んだ議論が必要になると思われる。もちろん、高い語学力を修得し、海外留学を行い、さらに語学力が就職へと結びついた学生や、1 年生から海外留学を志向している学生は多い。国内外の経済・社会情勢を考えたとき、さらなるグローバル人材の養成や国際感覚の醸成は、今後の大きな課題であると思われる。

おわりに

2016 年 4 月に新設された地域資源創成学部では、第 1 期生に対して、実践活動を中心とした授業が行われてきた。その過程は、試行錯誤の連続であり、学部教員に留まらず、行政、地域住民、事業者らの協力があって、授業カリキュラムを展開することができている。

第 1 期生に対して実施した卒業生アンケートを分析する限りにおいては、全体的なプログラムや教育内容について高い評価を得ており、卒業生の満足度は概ね高いものとなっている。だが、ビジネス英語の習得、地域の魅力をグローバルに伝えるという視点においては、道半ばの状態である。くわえて、卒業生のなかには、講義やゼミ活動、実践活動について課題を投げかけるコメントが一部寄せられている。少数意見とはいえ、これらの貴重なコメントについても対応が必要となるだろう。

2021 年 3 月には第 2 期生を社会へと輩出することになり、同様の卒業生アンケート調査を実施予定である。さらに、同窓生向けのアンケートや企業向けの卒業生アンケートについての実施予定となっている。このようなアンケート調査は、学部における「学び」を外部の視点から客観的に評価することにできる貴重な情報源である。時系列的に情報が集積することによって、学部教育におけるより詳細な分析が可能となるはずである。教務委員会では、引き続き、教育の質保障に向けた取り組みを続けていくことになる。

【参考文献等】

1）宮崎県（2019）『若者の県外流出要因等調査結果』p.1。
宮崎大学ホームページ（http://www.miyazaki-u.ac.jp/）
宮崎大学地域資源創成学部ホームページ（https://www.miyazaki-u.ac.jp/atrium/）

□□　【参考】宮崎大学地域資源創成学部卒業生アンケート調査　□□□

皆さまご卒業おめでとうございます。宮崎大学地域資源創成学部での学生生活はいかがだったでしょうか。大学での研究活動や社会活動がこれからの人生の大きな糧になることを期待しています。さて、宮崎大学地域資源創成学部では、今後の教育活動のさらなる向上を目指し、卒業生の皆さまを対象にアンケート調査をさせていただきます。

この調査において得られた情報は、教育の成果や効果の検証、今後の教育の質向上以外を目的として使用することはありません。どうぞご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

【1】あなたの性別、所属していたコースをお聞かせください。

①　あなたの性別お聞かせください。

（1）　男性　　（2）　女性

②　所属していたコースをお聞かせください。

（1）企業マネジメントコース　（2）地域産業創出コース　（3）地域創造コース

【2】宮崎大学での大学生活は満足いくものでした。

（1）満足　（2）概ね満足　（3）どちらでもない　（4）やや不満　（5）不満

【3】大学生活で特に力を入れたことは何ですか。

（1）学業（研究等）（2）部（サークル）活動　（3）アルバイト等　（4）社会貢献活動
（5）就職活動　（6）趣味　（7）その他（　　）

【4】大学生活で特に苦労したことは何ですか。

（1）学業（研究・課題等）　（2）生活費の捻出　（3）友人や教員との人間関係
(4)部(サークル)活動　(6)アルバイト等　(7)就職活動　(8)その他(　　)

【5】あなたは地域資源創成学部で、次の能力や知識をどの程度、身につけたと思いますか。
（5段階で評価してください）

	充分身についた	ある程度身についた	どちらともいえない	あまり身につかなかった	全く身につかなかった
①マネジメントの専門知識	1	2	3	4	5
②社会・人文科学の基礎知識	1	2	3	4	5
③農学・工学の基礎知識	1	2	3	4	5
④複眼的視点で地域を見る力	1	2	3	4	5
⑤地域の課題を発見する力	1	2	3	4	5
⑥コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
⑦問題解決能力や理解力	1	2	3	4	5
⑧英語等の語学力	1	2	3	4	5

【6】地域資源創成学部での「学び」や実践・実習活動の満足度をお教えください。

	とても満足している	ある程度満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	全く満足していない
①青島での合宿	1	2	3	4	5
②「地域理解実習」での実習	1	2	3	4	5
③「地域探索実習Ⅰ」での実習	1	2	3	4	5
④「地域探索実習Ⅱ」での実習	1	2	3	4	5
⑤インターンシップ・海外研修	1	2	3	4	5
⑥ゼミでの「学び」や実践活動	1	2	3	4	5
⑦卒業研究への取り組み	1	2	3	4	5

【7】あなたは地域資源創成学部のカリキュラムや施設にどの程度満足していますか。
（1）満足　（2）概ね満足　（3）どちらでもない　（4）やや不満　（5）不満
上記のように回答した理由をお聞かせください。

【8】卒業後の進路を選ぶ上で、大学でのどのような授業や経験、アドバイスが役に立ちましたか。
該当するものに○をつけてください（複数回答可）。
①共通科目の授業　②専門科目の授業　③実習活動　④国内インターンシップ
⑤外国語科目　⑥留学などの国際交流　⑦ゼミ活動　⑧就職委員会によるガイダンス・指導
⑨部（サークル）活動　⑩友人・先輩との交流　⑪地域・社会貢献活動　⑫就職活動
⑬指導教員等からのアドバイス・指導　⑭その他（　　）

【9】卒業後の進路についてお教えください。
（1）一般企業　（2）公務員　（3）大学院進学　（4）留学　（5）起業・自営業
（6）未定　（7）その他（　　）

【10】大学生活のなかで心に残っていること、講義やゼミ活動の成果や課題をお聞かせください。
また、大学施設や設備、カリキュラム等に改善の必要性があれば、具体的に記述してください。

ご協力ありがとうございました。